

京都大学新任教員教育セミナー2020

日時: 2020年9月24日(木) 13:00~16:00 会場: Zoom

Timetable		内 容
12:45~	受付	
13:00~	開会式 (司会: 高等教育研究開発推進センター准教授 山田 剛史) 趣旨説明 高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代	
13:05~	セッション1: オープニングレクチャー 「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」 理事・副学長(教育・情報・評価担当) 北野 正雄	現在の大学教育の動向と京都大学における教育改革の展開について
13:30~	セッション2: グループディスカッション 「コロナ危機の中で京都大学の教育をどう進めるかー課題や実践知を共有するー」 ファシリテーター: 高等教育研究開発推進センター准教授 山田 剛史	コロナ危機の中でスタートした2020年度。京都大学でもオンライン授業が進められ、様々な取組や実践が展開されている。本セッションでは、現状(取組やデータ)も踏まえつつ、新任の先生方で課題や実践知を共有する。
14:15~	休憩	
14:30~	セッション3: グループ別セッション テーマ①「留学生とどう向き合うか」 埋字研究科附属サイエンス連携探索センター(SACRA)国際戦略部門 講師 鈴木 あるの テーマ②「研究室運営を考える」 学際融合教育研究推進センター准教授 宮野 公樹 テーマ③「困難を抱えた学生対応」 学生総合支援センターカウンセリングルーム講師 和田 竜太 テーマ④「アクティブラーニング型授業」 薬学研究科講師 津田 真弘 高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代 高等教育研究開発推進センター准教授 田口 真奈/酒井 博之 テーマ⑤「オンライン授業を考える」 情報環境機構教授 梶田 将司	授業や研究指導・学修指導についてのさまざまなテーマについて、事例報告やワーク、体験をまじえながら、問題を共有し、解決方法を考えるとともに、実践的な知識やスキルを身につける。

京都大学新任教員教育セミナー2020

* セッション3: グループ別セッションのテーマ(タイトル)と概要

	テーマ(タイトル)	担当講師	概要	ファシリテーター
1	留学生とどう向き合うか	理学研究科附属サイエンス連携探索センター(SACRA) 国際戦略部門講師 鈴木 あるの	研究室や授業のクラス内に留学生を見かけることが普通になりました。異なる語学能力や文化・宗教・政治的背景をもつ国々の学生が共に気持ちよく学び、多様性を建設的な議論へと結びつけるために、教員にできることは何でしょうか。このセッションでは、マナーとして最低限知っておきたい海外事情や異文化の考え方、世界各国の様々な教育制度の概要などを、特に本学で起こりがちな問題に絡めながらご紹介します。さらにディスカッション形式で皆さんのご経験も共有していただき、より多くの疑問を解決していければと思っています。	SADEHVANDI研究員 佐藤万知准教授
2	研究室運営を考える	学際融合教育研究推進センター准教授 宮野 公樹	教員にとっての研究推進の場、そして人材育成の場である研究室。研究室を研究と教育の原動力として機能させるにはどうしたらいいでしょうか。PI(Principal Investigator)各々のやり方があるとは言え、この機会に一度考えておくのも大事かと思えます。いくつかの事例と調査結果を紹介いたします。	岡本特定講師
3	困難を抱えた学生に向き合うには	学生総合支援センターカウンセリングルーム講師 和田 竜太	修学上、研究指導上の不適応を起こした学生・院生に対し、教員はどう向き合えばよいのでしょうか。学生のその後の人生を大きく左右する時期に関わっていることを意識し、可能な対応を探るにはどうすればよいでしょうか。今回は様々な不適応の様相の紹介と「困難」を知る、あるいは気づくための話の聞き方を体験・実習したいと思います。	勝間特定助教
4	アクティブラーニング型授業をやってみよう	薬学研究科講師 津田 真弘 高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代	2018年度から薬学部では、アクティブラーニングを取り入れた授業(講義を聴くだけでなく、話す、書く、発表するなど学生側の能動的な参加を含む授業)に取り組んでいます。その中で、学生たちは能動的に参加するだけでなく、協働で深く学ぶ姿勢を身につけてきています。このセミナーでは、その授業で使っているさまざまなやり方、技法を実際に体験していただきながら紹介します。今年度はコロナの影響でオンラインでの実施となりましたが、いろいろな工夫で継続しています。アクティブラーニングについてまったく初めての方から、この機会にしっかり学びたいという方まで参加できます。	原特定研究員
5	これからのオンライン授業を考える	高等教育研究開発推進センター准教授 田口 真奈/酒井 博之 情報環境機構教授 梶田 将司	授業におけるICT活用を余儀なくされたこの数か月、初めてPandAを使った、という先生も多いのではないのでしょうか。コロナ禍が過ぎ去ったあとも、対面授業に加えて、ICTを活用することで、授業準備を効率化したり、教育効果をあげたりすることができます。また、京都大学が取り組んできた。OCW、MOOC、KoALA(京大のSPOC)を通して、先生の授業を学外に発信したり学内の授業で活用することもできます。本セッションでは、学内のオンライン授業のグッドプラクティスやICT活用事例を紹介し、これからのオンライン授業について考えたいと思います。	鈴木特定研究員